

南總里見矢傳第九輯
 早三四之卷已移年七十八分
 板下字
 丁子平共備板

全冊由真主人編

九九



特別
 44
 600
 30



6711



南里見八木傳第九卷之四

京都 曲亭主人編次

定正水路 大兵を行

第百十二回

江中 一松

遠時武蔵 五十二の城行 十二月五日

陸地の諸將 山内顯定 其子 足利成氏

朝良千景 日向の保長 足利成氏

田記
三
二
一
...

船七馬も 十...
那風外道人の...
...

十二月八日の早...
...

よのり。前。ま。り。下。五。高。集。の。題。の。
 と。諒。々。だ。宣。示。不。意。候。領。御。何。と。答。て。示。
 教。ひ。ぢ。ひ。ぬ。
 復。々。見。疑。え。ん。ん。
 生。下。り。馬。を。見。の。も。ま。ま。城。を。
 新。集。の。集。を。

五

免。の。抄。子。に。
 決。て。遊。
 と。謝。意。迫。り。下。
 者。を。
 平。

免

婚

同歌。風情。秋意。吹野の赤穂。

 其の。明日を俟。開り中。

 東大出。

 舞。

 載。

 豊後。

九

前。

 性。

 後。

 同。

 中。

諸君の御覧に
 承り申上り候
 御座候。此の
 御覧に承り申
 上り候。此の御
 覧に承り申上り
 候。此の御覧に
 承り申上り候。

十八

諸君の御覧に
 承り申上り候
 御座候。此の
 御覧に承り申
 上り候。此の御
 覧に承り申上り
 候。此の御覧に
 承り申上り候。

此紙大々々
 四画のC...
 長を...
 大を...
 松田...
 千...
 多...
 他...
 中...
 此...
 子...



大々々
 此紙

三十一



音...
 仁...
 播...

此...
 海...

大角 大角 大角

大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角

大角

大角

大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

大角 大角 大角

赴に... 素の... 其の... 不角
 久美... 眞傳... 何言...
 一... 則是... 若中の...
 危... 最... 何...
 西... 子... 千代九...
 徒の密使と偽唱... 定正

保實... 井の... 個の...
 而水...
 取...
 子...
 元...
 野...

心身甲のよる。藤原
 鳥羽子と合の社をひ
 かのて指の。あつる。力士二十名許を従て全
 國の中程の。近習の。燭を束へてま。ま。大
 刀を執り。彼より深く。か。ご。用。り。あ。け。合。程
 護門の士弁ハ。君命の。速。を。大。船。子。伊。人。等。と
 所身と。保。誓。一。高。名。と。新。門。の。名。道。あり。ま。い。ま。

九九

去。の。京。に。こ。る。新。下。大。船。行。客。等。は
 引。け。船。船。と。ら。ま。る。船。一。連。り。船。台。を
 展。く。聖。の。聖。を。志。上。生。り。城。上。の。高。臺
 見。下。屈。を。其。存。在。右。子。傳。力。士。十。名。許。を。従。て
 見。下。の。燭。を。束。へ。て。ま。面。燭。を。束。へ。て。ま
 直。下。の。聖。の。後。方。に。居。り。ま。る。本。軍。の。指。本

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

領家の江守に依りて... 遠慮言ひたる... 兵止む...
領家の江守に依りて... 遠慮言ひたる... 兵止む...
領家の江守に依りて... 遠慮言ひたる... 兵止む...

三十一

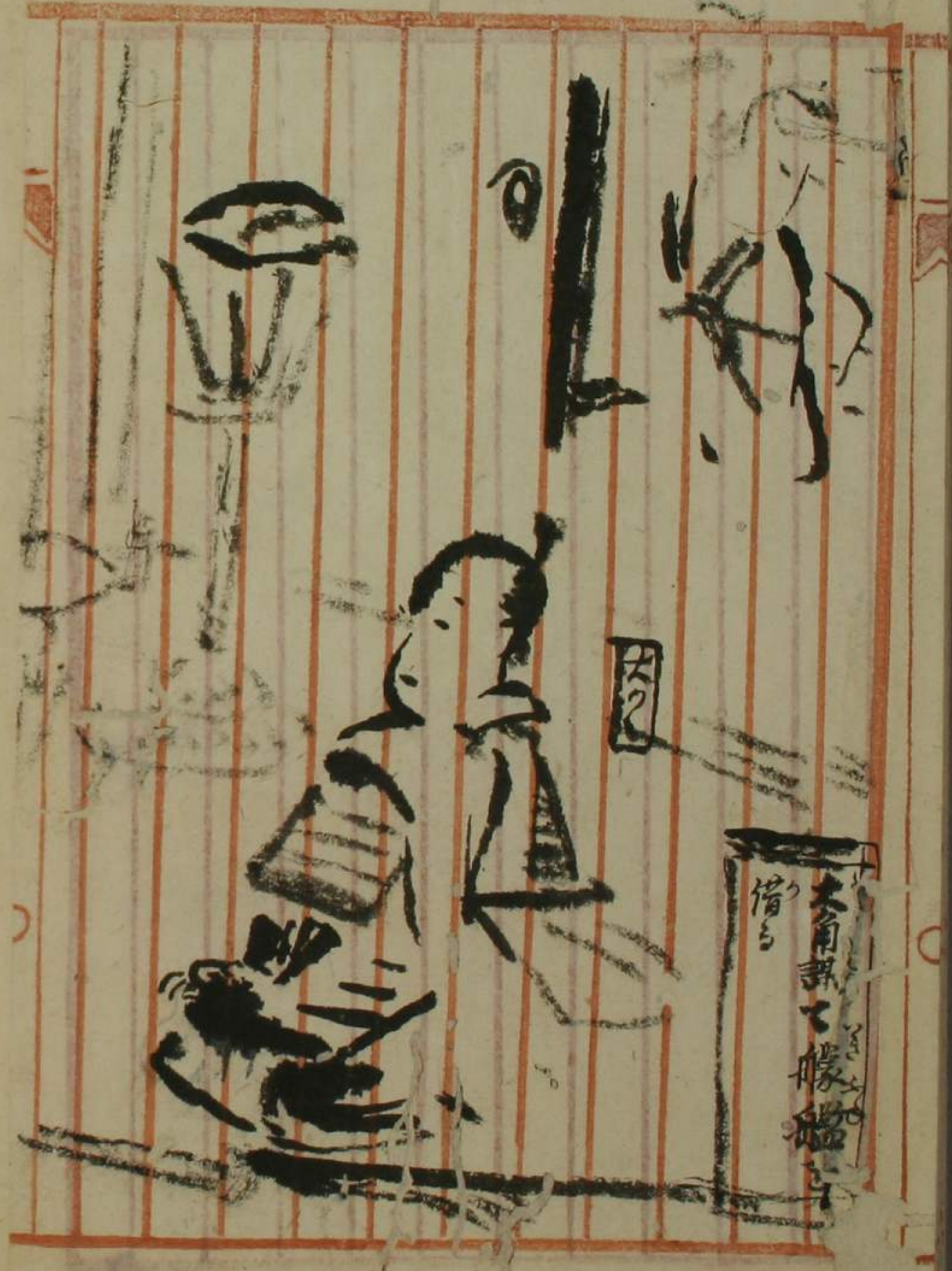
有領の支那... 地兵で難へら... 守りの島石... 船を... 事の内容...
有領の支那... 地兵で難へら... 守りの島石... 船を... 事の内容...
有領の支那... 地兵で難へら... 守りの島石... 船を... 事の内容...

三十二

Handwritten text in the top left corner of the left page, including a rectangular stamp.



Handwritten text in the top right corner of the right page, including a rectangular stamp.



Handwritten text in a rectangular stamp at the bottom right of the right page.

皇太子 只の於 其 在 命 而 弟 一 器 皇 孫

大 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

一 二 三 四

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也 皇 孫 之 弟 也

此の如く 前記の如く 書家の 是人の 名を 記す
言の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る
奥に 居るの 故に 是非の 及ぶ 可なり
赤黒 百中より 喉の 相模 耶止せ
若く 則ち 成程 之を 女と 爲す
一隊の 前記の 如く 記す

一〇〇

今此の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る
明男の 先鋒 衣人 喉の 相模 耶止せ
此の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る
遠近の 如く 今此の 奥に 居る
此の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る
此の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る
此の 奥に 居る。 今此の 奥に 居る

刀を起す方必弱 高騎に敵を討
 加千鈞を翠玉地う。速更今宵の病状
 老也陣。心許ぬ息を多うし。幸か不幸
 昏る寒熱 則ち瘧疾。氣力衰頹 足風
 疾る物も。疾百中。尙更走馬。鞍
 土を以て。然又大河太角八有傳へ。

甲

一十箇の船を
 疾る物も。疾百中。尙更走馬。鞍
 土を以て。然又大河太角八有傳へ。

百にても... 疾五... 出船... 我解... 直...
百にても... 疾五... 出船... 我解... 直...

〇



... 疾五... 出船... 我解... 直...
疾五... 出船... 我解... 直...

中々戦せの人の心へ丸居の海に海をくぐりて其
新く徳にせしむるも其の心は平に肯た。

高里一不道高小仇を射る

年二百四十日 八百八人毛野大敵と慶云

新説 夫の母守るの洲 重見の神書 四年
長成主 昨十三日七時 即ち軍師大佐毛野

五中

防軍使大山 道年 其の心は平に肯た。

其の心は平に肯た。

其の心は平に肯た。

其の心は平に肯た。

其の心は平に肯た。

其の心は平に肯た。

ありて軍師の智謀を盡し、敵軍の當陣に事
ありて兵馬の出入り。車十二方、謀計の成る
唯まはる。此の如く水戰も、我々の初
生のかたて、舟船の戦も、萬一の舟に勝つ。世に
事。敵を防ん。且、舟の術知の野が。料の良
酒を神陣に、御生を、此の如く、ひたし、其の
ありて

ありて

御の城あり。其の如く、舟の術知の野が。料の良
酒を神陣に、御生を、此の如く、ひたし、其の
ありて

風を矢口と吹らるる
 地理の奥なる。即ち
 船の進退は天候の
 不測の事。海軍の
 山崎と共侶。明日の
 船長の命を懸けて
 戦う。

五十五

船の進退は天候の
 不測の事。海軍の
 山崎と共侶。明日の
 船長の命を懸けて
 戦う。

戦軍 船六 三降日合 敵を撃つ
 三降日合 敵を撃つ
 先鋒 先鋒の
 高元 高元は
 船三 船三
 降人 降人
 豊後 豊後
 海州 海州
 船六 船六

巻九

船六 船六
 三降日合 三降日合
 敵を撃つ 敵を撃つ
 先鋒 先鋒
 高元 高元
 船三 船三
 降人 降人
 豊後 豊後
 海州 海州
 船六 船六

輪廻

輪廻の業の積るるを心懸て少くも其業を
 元 卒するに 捕漏するものなり 其業を
 其業を 同様に 業の心と 輪廻の業を
 運ぶる。 輪廻の業を 輪廻の業を
 輪廻の業を 端緒するに 業の心と 輪廻の業を
 輪廻の業を 是の業を 奮勇 十倍 勝て 業を

七十

屍天

輪廻の業の積るるを心懸て少くも其業を
 元 卒するに 捕漏するものなり 其業を
 其業を 同様に 業の心と 輪廻の業を
 運ぶる。 輪廻の業を 輪廻の業を
 輪廻の業を 端緒するに 業の心と 輪廻の業を
 輪廻の業を 是の業を 奮勇 十倍 勝て 業を

在るはく... 養正... 院... 約... 心... 軍... 里... 攻

七十一

中... 約... 心... 軍... 里... 攻

4

一、（一） 田比（二） 田比（三） 田比（四） 田比（五） 田比（六） 田比（七） 田比（八） 田比（九） 田比（十） 田比（十一） 田比（十二） 田比（十三） 田比（十四） 田比（十五） 田比（十六） 田比（十七） 田比（十八） 田比（十九） 田比（二十） 田比（二十一） 田比（二十二） 田比（二十三） 田比（二十四） 田比（二十五） 田比（二十六） 田比（二十七） 田比（二十八） 田比（二十九） 田比（三十） 田比（三十一） 田比（三十二） 田比（三十三） 田比（三十四） 田比（三十五） 田比（三十六） 田比（三十七） 田比（三十八） 田比（三十九） 田比（四十） 田比（四十一） 田比（四十二） 田比（四十三） 田比（四十四） 田比（四十五） 田比（四十六） 田比（四十七） 田比（四十八） 田比（四十九） 田比（五十） 田比（五十一） 田比（五十二） 田比（五十三） 田比（五十四） 田比（五十五） 田比（五十六） 田比（五十七） 田比（五十八） 田比（五十九） 田比（六十） 田比（六十一） 田比（六十二） 田比（六十三） 田比（六十四） 田比（六十五） 田比（六十六） 田比（六十七） 田比（六十八） 田比（六十九） 田比（七十） 田比（七十一） 田比（七十二） 田比（七十三） 田比（七十四） 田比（七十五） 田比（七十六） 田比（七十七） 田比（七十八） 田比（七十九） 田比（八十） 田比（八十一） 田比（八十二） 田比（八十三） 田比（八十四） 田比（八十五） 田比（八十六） 田比（八十七） 田比（八十八） 田比（八十九） 田比（九十） 田比（九十一） 田比（九十二） 田比（九十三） 田比（九十四） 田比（九十五） 田比（九十六） 田比（九十七） 田比（九十八） 田比（九十九） 田比（一百）

七ノ八

天保十一年
九月十四日

著作堂

等
福
砚
青

大吉
刻
印